

長引く逆境のなかで何ができるかを考え 積極的に新たなチャレンジを

6月に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する警戒レベルが下がって以降、新規陽性患者が増加しています。第2波の到来とも言われ、今年4月のピークをも上回り、事態の終息がまったくわからない状況です。そんななかで栄養経営士にできることは何か。当協会役員からのメッセージをお伝えします。

マネジメント能力を活かし アクティブに攻める姿勢を!



一般社団法人日本栄養経営実践協会 副代表理事
 医療法人財団松園会 東葛クリニック病院 副院長
 秋山 和宏

い時代になっていくでしょう。

栄養士が地域に出ていくときに必要になるのが、ネットや通信機器といったICTへのリテラシー(知識、活用能力)です。現在でも2

COVID-19の流行が予想外に長引き、今は誰も経験していない事態に突入しています。現在は「コロナ禍」と言っていますが、これが終わっても別の新しい「ウイルス禍」が起

こる可能性が高いのではと懸念しています。

感染症予防を考えたとき、最後の砦となるのは個人の免疫力であり、その下支えとなる栄養の役割は大変重要になります。そのため、

栄養士は病院内や担当患者というテリトリーを超えて、広い範囲で活躍しなければなら

行ったりするとき、患者は話を聞いてくれる態勢でいます。ある意味、医師も栄養士も甘やかされた、特別な環境で患者と向き合っているのです。しかし、

病院外ではこうはいきません。私たちは病院という「ホーム」から患者の自宅や地域という「アウェイ」で勝負しなければならぬので

す。わかりやすい説明方法や見やすい資料、またオンライン指導で

は電話ではなく表情が見える動画で行うなど、いろいろ工夫する必要があります。

指導する内容も、一辺倒で教科書的な内容では患者に届きません。個人の状況に踏み込み

患者一人ひとりに対応するような指導が求められる。たとえば自宅

でくり返し見られる、オリジナルの動画教材を自作しても良いかもしれ

ません。こうした

ICTの活用で栄養士が生活の場に入り込むことが可能になり、栄養士や栄養管理をもっと身近なものにできる可能性もあります。

今後は、今までのように病院に患者が来る時代ではなく、栄養士も、自立したマネジメントや心構えが必要になります。

自分自身を改めて見つめ直し
 新たな一歩を踏み出す機会に



一般社団法人日本栄養経営実践協会 監事
 和洋女子大学 家政学群 健康栄養学類 教授
 古畑 公

東日本大震災の際も

そうでしたが、有事の際に医療者として何をすれば良いかとなった

とき、医師や看護師に尋ねると、ほぼ同じ答えが返ってきます。しかし、管理栄養士に聞

「栄養経営士」は単なる栄養士ではありません。マネージャーとしてアクティブに攻めるスタイルが求められます。誰も答えがわからない状況なのだから、自分で考えて良いと思ったことはどんどん取り入れ、「迷ったらやる」くらいの気概で取り組んでほしいと思います。

「栄養経営士」は単なる栄養士ではありません。マネージャーとしてアクティブに攻めるスタイルが求められます。誰も答えがわからない状況なのだから、自分で考えて良いと思ったことはどんどん取り入れ、「迷ったらやる」くらいの気概で取り組んでほしいと思います。

いてみると、人によって回答が違うということ

を何度か経験してきました。それはなぜかと考えてみると、さまざま事情があるとは思

うのですが、大きな理由の一つに「管理栄養士がやるべきこと

を、普段から明確に理解して動いていない」と

いうのがあるのではないだろうか。

もちろん、それには組織の問題もあるでしょう。栄養部門とい

う人数が少ないなかで、指示命令系統がきちんとしていないところは少ないでしょうし、組織としての動きができていないという職場のほうが多いかもしれません。しかし、たとえ一人職場であったとしても、病院という組織のなかで自分がどう動くべきかは絶えず考えていく必要がありますし、組織として動いていないのであれば、それをどのように解決していくのかを考え、実行することは、栄養経営士としての重要なミッションであるはず

です。

みなさんは栄養部門の専門職である管理栄養士であり、さらにマネジメントを学んだ栄養経営士です。単に資格を取得したというだけなく、栄養経営士として何ができるのか、病院にどう貢献していけるのかを、常に考え、行動に移していく力はずで持っているはず

です。

病院としての目的、所属する栄養部門という組織としての目的はどこにあるのか、そのなかで自分は何を

する

ことで貢献できるのか。コロナ禍で先行きが不透明な今だからこそ、立ち止まって今一度、見つめ直してみたいかがでしょうか。もし、「自分にはそこまで力はない」と思っているのであれば、栄養経営士のテキストを読み直したりDVDを見直したりなどして、改めて学び直してみてもよいでしょう。そこで学び直したものは確固とした自信となって、自分のなかに蓄積されていくはず

です。そのうえで、新たな一歩を踏み出したい

です。

新たなチャレンジをする

ことは、これまでの自分を

変えるということでもあり

ます。今この期間を新しい自分を確立するための大切な時間

に捉えて、前向きに取り組んでください。

支部NEWS

東海支部

九州支部

【東海支部】 セミナーレポート

2020年度診療報酬改定によるオンライン栄養食事指導の導入を学ぶ

支部研究会「管理栄養士スキルアップセミナー2020」WEBセミナー開催

東海支部は7月11日(土)に「管理栄養士スキルアップセミナー2020」をWEBセミナーとして開催。総合病院と急性期単科病院の管理栄養士が「2020年度診療報酬改定によるオンライン栄養食事指導の導入」について講演しました。

コロナ禍でも管理栄養士が今できることを即実行、即実践

今年度初の開催となる勉強会はWEBセミナーでの開催となり、全国各地から栄養経営士や管理栄養士、約60名が参加しました。

今改定により外来栄養食事指導料が見直され、2回目以降は電話などの情報通信機器を用いた指導でも算定が可能となりました。コロナによる影響もあり、最近はオンラインで指導する医療機関が増えてきています。そこで、今回はオンライン栄養食事指導をすでに導入している医療機関の管理栄養士が、それぞれの視点から講演しました。



今改定は管理栄養士にとって追い風と語る島田晶子氏

前半は名古屋ハートセンターの管理栄養士、東海支部理事の島田晶子氏が「オンライン栄養食事指導の実践」をテーマに2020年度診療報酬改定の解説とオンライン栄養食事指導の導入に至るまでの流れと運用方法を説明しました。島田氏は、オンライン栄養指導を導入すれば継続的な介入により患者の栄養状態を把握することができるため、今回の改定は管理栄養士にとって追い風の改定であると述べました。

名古屋ハートセンターでは、新型コロナウイルス感染症の影響により外来心臓リハビリテーションが休止となったことで導入に踏み切ったそうです。実際の導入・運用は医事課と相談しながら進め、看護師や理学療法士との情報交換、事務方による保険証の確認など、今まで以上に他職種との連携が必要であると説明しました。島田氏は「コロナ禍でも今、管理栄養士ができることを見つけて即行動・即実践していくことが最も重要であり、ウィズコロナ時代に備えて、早期にシステムを構築しておくことが必要である」と訴えました。

後半は松波総合病院の管理栄養士で、東海支部理事の穂山直美氏が「オンライン栄養食事指導の理想と現実」をテーマに講演しました。穂山氏は、導入前は「電話診療を受け入れてもらえるか、顔が見えない状態で患者さんに理解してもらえるか」などの不安要素があったこと、導入後は患者から「気軽に指導が受けられる」「次の受診までが短く

なり、定期的に指導が受けられる」などの良い意見がある反面、「対面で栄養指導を受けたい」「耳が遠いので電話はできない」などの断りの声もあったと説明。

今後、オンライン栄養食事指導の件数を増やしていくためには、マニュアルやポスターの修正、資料を提示しながら指導が行える会議用オンラインツールの活用強化が必要であると課題を述べ、講演を締めくくりました。

講演後には、オンライン栄養食事指導の導入意欲はあっても、「システムの構築が難しい」「院内での連携がとれていない」など、導入が進まない現状について参加者から声があがりました。

東海支部では、こうした参加者の意見や要望をもとにさらにステップアップできる勉強会を開催していく予定です。当面はWEBでの開催となりますが、今後もセミナーを通じて栄養経営士・管理栄養士の交流の場を提供できればと考えています。



穂山直美氏は自身のオンライン栄養食事指導の経験をもとに問題点を指摘した

【九州支部】 セミナーレポート

「指導」だけではなく、「コミュニケーション」という視点を持つ

管理栄養士のための基礎医学講座～栄養カウンセリング編～

九州支部は8月2日(日)、「栄養カウンセリング」をテーマとした「管理栄養士のための基礎医学講座」を開催しました。この講座は管理栄養士が業務を行う上で必要な、基礎的医学の知識習得を目的とし、年に2回行っています。講師は九州女子大学家政学部栄養学科教授の三浦公志郎氏が務め、今回は会場での講座とライブ配信のハイブリッドで行いました。

対象者との信頼関係を築くことで、協力関係が生まれ、自発性につながる

はじめに、管理栄養士がコミュニケーションを重視する意味について、三浦氏は「栄養指導は対象者の検査値や生活習慣に目を向けがちだが、対象者の人となりを理解し、コミュニケーションをとろうとすることで、対象者のやる気を引き出すことができる」と話しました。

前半は人の心理についての講義からはじめ、三浦氏は「やせたいと思っているのに、つい食べてしまう糖尿病患者に対し、どのように指導をしているか。血液データなどのエビデンスをもとに指導することはもちろん必要だが、それぞれの対象者ごとに異なる心理状況が疾患に影響する。そのため、対象者の生活背景を詳しく聞き出すことが重要になる」と語りました。

話を聞き出すためには、対象者の話を聞くこと

に徹し、質問と話の要約化をくり返します。そうして対象者を理解し共感することで、協力して治療を進める信頼関係を築くことができます。このように、管理栄養士がコミュニケーションの基本を把握し、使用することで、対象者の自発性を引き出せるようになるそうです。

グループワークでは、講義を元に対象者の話を促し、傾聴する練習をしました。お互いを尊重しながら意見を交わす「アサーティブコミュニケーション」という技法を使って対象者が自己主張できる状況を生み出し、対象者の自尊心や自信を肯定してあげると、管理栄養士は選択肢を提案・指導しやすくなります。

三浦氏は「なかなか自分の心情を話せない対象者もいる。言葉だけではなく、声の調子や表情、態度でもコミュニケーションが行われる。対象者の主張を引き出すためには、ときには沈黙が必要なこともある」とコミュニケーションの工夫を伝えました。

対象者と自分を知ること
コミュニケーションを円滑にする

後半は「人格適応論」に基づき、患者の特性を把握する方法を学びました。同論では人格に6タイプあり、相手の特徴、また自分の特徴を把握することで、対象者のやる気を引き出すコミュニケーション

をとることができるといいます。「対象者の特性によって、感情を一緒に共有するのが良いのか、データを論理的に伝えるのが良いのかなど伝え方が変わってくる。一辺倒の声かけに頼らず、相手を見ながら言葉がけを変えていくのが良い」と三浦氏。

受講者からは「栄養指導時に患者様への聞き取りや伝える内容が変わってくると感じた」「自分が対象者側を経験することで、どんな言葉や態度が話しやすい雰囲気をつくるのか考えさせられた」との声がありました。普段の業務の振り返りや意識の変化につながり、カウンセリング法を知ることによって、さまざまなアプローチができることを、実践をもって学んでいただく機会となりました。



グループワークでは、コミュニケーションの難しさを実感

患者にとって最適な栄養剤の選択が 管理栄養士の重要なミッション

6月27日に開催した「全国栄養経営士のつどい名古屋大会」で行われた、コロナ禍における管理栄養士の活動についてのパネルディスカッション。具体的かつ実践的な内容で「勉強になった」という声も多く聞かれたなか、座長を務めた宮澤靖代表理事が「現場で使っている」と紹介した栄養剤についても注目が集まりました。

コロナ禍での管理栄養士の役割について改めて宮澤代表理事にお話しただくとともに、具体的な栄養剤の詳細についても伺います。

COVID-19への対応において 管理栄養士への期待は大きい

COVID-19の患者さんの基礎疾患をみると、糖尿病と高血圧の罹患率が高いです。この2つは、普段から管理栄養士が食事指導をしている対象疾患でもあります。合併症があると重症化にもつながりますし、基礎疾患をコントロールする意味でも管理栄養士の役割はとても重要になってきます。

また、最近では年齢の若い患者さんが増えてきていますが、臭覚異常と味覚障害の訴えが多くなっている印象があります。「味がしなくて食べられない」という訴えへの対応を考えられるのは、医師・看護師ではなく管理栄養士の出番です。現在、当院でも多職種によるCOVID-19チームを組んで取り組んでいます。そういった部分での管理栄養士としてのアプローチへの期待は大きいものがあります。今こそ管理栄養士の出番です。ぜひ前に出てほしいと思っています。

私が勤務している東京医科大学病院では、COVID-19の患者さんを多く受け入れています。なかでも集中治療室に入室されるCOVID-19の患者さんというのは、ショックバイタルで入院される患者さんがほとんどです。入院してすぐ栄養、というわけにはいかない。とはいえ、消化管がまったく使えないわけではない、という状態ですと、1日～2日間だけではありませんが、点滴加療がメインとなります。その状況において腸管疲弊させないということで採用したのが、グルタミンCOとグルタミ



特別ディスカッションで座長を務めた宮澤靖代表理事



グルタミン CO

栄養成分表示 (1包 8.7g中)	
エネルギー	33.6kcal
たんぱく質	7g
脂質	0g
糖質	1g
食物繊維	0.4g
食塩相当量	0.002g
ナトリウム	0.6mg
カルシウム	0.2mg
マグネシウム	0.2mg
鉄	20 μg
亜鉛	1.7mg
セレン	8 μg
ビタミンC	50mg
ビタミンE	6.6mg
(L-グルタミン)	7g
カリウム	2mg
リン	0.5mg

ンF(共にアイドゥ株式会社)です。

COVID-19の重症患者さんは、下痢をされている方が非常に多くなっています。医師に聞くとどうやら腸内細菌叢が変化するらしく、それによって消化器症状が出やすいという特徴があるようで、海外ではエビデンスも出ています。腸内細菌叢が乱れるということは考えられますので、そこを整えていきたいという観点からPHGGを含有しているグルタミンCO、グルタミンFを選んでいきます。バクテリアアルトランスロケーションの予防と腸内細菌叢の改善が目的となります。

グルタミンについては、COVID-19だけではなく、腸管は使えるけれども経腸栄養や食事にまでは至らないという状況の患者さんに対して多く使われていると思うのですが、大切なのはガイドラインに示されている量を入れなければ効果は出ない、ということをしかりと認識することです。

ガイドラインではグルタミンの薬理量というのは20～30g(0.3g～0.6g/kg/日)となっています。グルタミンCOは1包に7g入っていますので、1日3包ですと21g。1日3回で標準的な体重の症例にはガイドラインに準拠した形での薬理量を提供できるということで、非常に有用性が高いと考えています。グルタミンFは1包10gとなっているので、標準体型から大柄な方に対してはこちらを使用しています。

グローバルコストで考えて ベストな選択で実績を出す

集中治療室の患者さんのなかには、ECMO(対外式膜型人工肺)などのデバイスが入っている方も少なくありません。そのようなデバイスが入ると血液が凝固しやすくなるため、医師は非凝固薬を投薬して血栓形成をしないようにするわけですが、私は管理栄養士として抗血栓作用のあるEPAを入れることを提案させていただきました。そこで使用したのが「EPA1100」(アイドゥ株式会社)です。



グルタミン F

栄養成分表示 (1包 26.5g中)	
エネルギー	80kcal
たんぱく質	10g
(L-グルタミン)	10g
脂質	0g
糖質	10g
食物繊維	5g
食塩相当量	0.15g
ナトリウム	60mg
カリウム	16mg
カルシウム	2mg
マグネシウム	2mg
鉄	0.1mg
リン	5mg
亜鉛	5mg
セレン	50 μg
クロム	50 μg
ビタミンC	150mg
ビタミンE	20mg
ビタミンA (レチノール当量)	100 μg

「EPA1100」の特徴は、EPAが高含有であるということです。1100mg入っているというのは医薬品でもなかなかありません。ガイドラインにおけるEPAの有効濃度は2000mg以上とされていますから、2包でこの有効濃度をクリアできるという使い勝手のよさが非常に大きかったです。ここでもやはりガイドラインに準拠した数値をクリアするという観点からの選択をさせていただきました。また、EPAによる「抗炎症作用」も同時に期待できると考えています。EPAは、プロスタグランジン、トロンボキサン-3、ロイコトリエン-5の前駆体であるω-3脂肪酸の多価不飽和脂肪酸の一つです。生理活性の強いω-6系統と競合することで、免疫や凝血反応、炎症などにおいて過剰な反応を抑えるということが明らかになっています。EPAが代謝される脂質メディエーターでは、resolvinと呼ばれる一連の化合物が注目されており、中でもresolvin E1が高い抗炎症作用を有していることが明らかにされつつあります。我々の施設では、COVID-19患者で経腸栄養法管理の症例には、主治医の許可をいただき1日3包を濃厚流動食投与時にショットにて投与をしています。

栄養剤の選択においてはコストが問題になることも多いでしょう。しかしCOVID-19に限ったことではないですが、管理栄養士として目先の食材費の先にあるトータルコストを考えることが大事だと思います。栄養をきちんと入れて罹患期間を短くすることができれば、薬剤を減らせるなどの医療経済的なメリットは非常に大きいですし、早期退院でベッドの回転率を上げることができれば、新規の患者を受け入れることもできます。今はコロナ禍で病院も大変厳しい状況にありますが、グローバルコストで考えて実績をつくることで、病院経営者の方に「栄養部門は頑張っている」と思ってもらえるチャンスだと考えて、メリハリのある栄養サポートをしていくべきだと思います。



EPA 1100

標準栄養成分値 (1袋 総重量 4.4g中)	
熱量	40kcal
たんぱく質	0g
脂質	4.40g
炭水化物	0g
食塩相当量	0mg
ナトリウム	0mg
EPA (エイコサペンタエン酸)	1100mg
DHA (ドコサヘキサエン酸)	480mg
n-3系脂肪酸合計量	2050mg
リン	0
カリウム	0
リン	0.5mg

▼サンプル依頼およびお問い合わせは
アイドゥ株式会社
〒510-0943 三重県四日市市西日野町256
TEL 059-329-6920 / FAX 059-329-6917
e-mail info@ai-do.jp / http://www.ai-do.jp



栄養経営士が知っておきたい!

イベント 情報掲示板

栄養経営士に求められるのは、さまざまな情報へのアンテナを張り、自身の知識・スキルを常にアップデートしておくこと。そのための貴重な機会である、全国で開催されるイベント情報を、支部の研究会を中心に掲載します。

※新型コロナウイルス感染症対策で、イベントが中止になる場合があります。必ず最新情報を確認してください。

サイト情報

「嚥下食レシピ・製品活用レシピ」公開

ニュートリー株式会社ではホームページ内「嚥下食レシピ・製品活用レシピ」にて、嚥下機能が低下した方でも飲み込みやすいように配慮した嚥下食など203レシピを無料公開しました。病院・介護施設の栄養士・調理師をはじめ、在宅介護をしているご家族も活用可能な内容になっています。

- URL : <https://www.nutri.co.jp/nutrition/recipe/index.html>
- 掲載カテゴリ : 主食・主菜・副菜・汁物・飲み物・デザート
※病院・介護施設向け／ご家庭向け表記あり
※作成動画付きメニュー多数あり
- お問い合わせ : ニュートリー株式会社(担当:横山)
TEL:03-3206-0107

セミナー情報

第1回ヘルシーフードWEBセミナー

今、知っておきたいコロナ対策 管理栄養士・栄養士に求められる知識と役割

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への長期的な対応が見込まれるなか、感染予防のみならず栄養管理上のさまざまな問題が生じつつあり、その解決や医療福祉機器における新たな視点での栄養管理体制の確立が急務となっています。COVID-19患者における栄養障害について、当協会の代表理事である宮澤靖氏が自院での経験を管理栄養士の立場で概説します。

- 日程 : 2020年9月3日(木) 19:00~20:00
2020年9月5日(土) 14:00~15:00
※両日とも同一内容です。
- 講演 : 宮澤靖氏(東京医科大学病院 栄養管理科 科長 / 日本栄養経営実践協会 代表理事)
- 参加費 : 無料(事前登録制)
- 申し込みURL : <https://v2.nex-pro.com/campaign/10420/apply>
- お問い合わせ : ヘルシーフード株式会社
E-Mail:info@healthy-food.co.jp

コンテスト情報

第6回食物アレルギー対応食 料理コンテスト

「特定原材料7品目のうち、卵・乳・小麦のすべてを使用しない、または他の食材で代替したアイデア料理またはおやつ」および「特定原材料等28品目のうち使用しているものを明らかにしているレシピ」という条件のもと、公益財団法人ニッポンハム食の未来財団主催、厚生労働省・農林水産省後援の食物アレルギー対応食コンテストが開催されています。

- 応募期間 : 2020年7月1日(水)~10月10日(土)
- 結果発表 : 2021年2月下旬~3月下旬(予定)
- 応募方法 : 既定の応募用紙と料理の完成写真(市販食品を使用の場合にはそれも含む)を送付
- 募集部門 : 一般の部 / 学生の部
- 賞金 : 最優秀賞 商品券10万円 / 優秀賞 商品券5万円
- 宛先 : 〒305-0047 茨城県つくば市千現2-1-6 つくば研究支援センターA-24 公益財団法人ニッポンハム食の未来財団「第6回 食物アレルギー対応食料理コンテスト2020」事務局
またはメールで contest@mirazaidan.or.jp(本文含めて100MBまで)
- お問い合わせ : 「第6回食物アレルギー対応食料理コンテスト2020」事務局
TEL:029-893-2882

協会事務局より

9/27 東京会場・WEB受講同時開催 2020年度「栄養経営士」資格認定基礎講習

今年の基礎講習は東京会場での講義をオンラインでも受講いただけるハイブリッド形式に変更いたします。すでに会員となっている方もご受講いただけるので「栄養経営士」としての復習やモチベーションアップのために、ぜひご活用ください。

- 日程 : 2020年9月27日(日) 10:00~17:00
- エントリー締切 : 2020年9月9日(水)
- 講演 : 宮澤靖氏(一般社団法人日本栄養経営実践協会 代表理事)
- 参加費 : 【一般】8,500円 【会員】5,100円
- 会場 : 日本医療企画セミナールーム(東京都中央区八丁堀3-20-5 S-GATE八丁堀9階)
※オンラインでの受講にはZoomを使用します。
- 申し込みURL : http://www.nutrition-management.jp/exam/basic_class.html
- お問い合わせ : 一般社団法人日本栄養経営実践協会 事務局
TEL:03-3553-2903

一般社団法人 日本栄養経営実践協会 主催

10年後も生き残れる管理栄養士を目指そう!

第11回
「**栄養経営士**」**2020年11月15日(日)**
資格認定試験

- 受験料 : 8,500円(税込)
- 試験会場(予定) : 札幌・仙台・東京・金沢・名古屋・大阪・福岡
- 受験資格 : 管理栄養士(実務経験2年以上)かつ「栄養経営士」資格認定基礎講習修了者

「栄養経営士」資格認定基礎講習は
DVD視聴による受講も可能です!

3枚組・特典映像
「近森病院に学ぶ実践マネジメントのすべて」付き

くわしくは

🔍 **栄養経営士**

検索



一般社団法人 日本栄養経営実践協会
The Japan Association for Nutritional Management Practice

〒104-0032 東京都中央区八丁堀3-20-5 S-Gate八丁堀9F
TEL:03-3553-2903 FAX:03-3553-2904